校長室から　令和３年２月２４日

「ともに！　チーム長町プロジェクト第４９弾」

文化部の活動を地域に

２月も下旬となりました。今月は大きな地震があり、福島県下では余震も続き、東北地方全体が不安な日々が続いています。

さて、本校に目を向けてみると、今年度はコロナ禍でもあり、長町中学校の大きな特色のひとつである地域との連携活動が、なかなか思うようにできませんでした。しかし、その中でも、学校が再開した６月は、ボランティアの生徒達によってマスク制作を行い、福祉施設に寄贈し、とても喜んでいただきました。また、７月は、長町商店街様からご支援をいただき、「七夕飾りプロジェクト」に参加し、全校で「七夕飾り」を作成。商店街に飾っていただく機会に恵まれました。さらにはＦＭたいはく様のご協力によって、本校生徒の「感謝のメッセージ」を保護者、地域の方々に発信し、出来る事を地道に行ってきました。

今回は、地域の大型商業施設でもある「ララガーデン長町」様からのお声掛けによって、文化部の作品を展示していただいたり、放送によって館内に紹介していただいたりしています。地震の被害も大きかったなか、中学校に対してご配慮いただき、本当に有り難く思います。

校内においては、様々な作品を展示してくれている文化部ですが、今年は、なかなかその成果を校外に向けて発信する機会がなかっただけに、生徒の作品を多くの方々に見ていただいたり、聴いていただいたりできるのは、とても嬉しいことです。私も足を運び、すべての作品を鑑賞し、吹奏楽部、合唱部、演劇部の演奏や朗読を放送で聴いてきました。写真撮影していた時に３名の保護者の方とばったりお会いしました。「生徒さんの作品が校外に出て、皆さんに見ていただけることはとても良いことですね。」とお声掛けいただきました。有り難うございました。

例年は、「ともに!チーム長町プロジェクト」を中心に１年間をとおして、多くの生徒たちが地域連携活動や文化活動に参加していましたが、今年は制限があります。それでも出来る事に日々取り組み、少しでも地域の方々と様々な形で結びつくことができることも分かりました。今回のこの展示発表が通算で４９回目の「ともに!チーム長町プロジェクト」となりました。

中学生の活動とは異なりますが、先日、新国立劇場の舞踏芸術監督に就任した吉田都さんの特集記事が掲載されていました。吉田都さんは、イギリスのロイヤルバレエ団でプリンシパルを長く務め、世界のバレエ界を牽引してきた方です。数ヶ月前、引退公演のドキュメンタリー番組でも紹介されていました。華やかなバレエの舞台の裏側で凄まじい努力があった事が放送されていて、胸を打たれました。その吉田都さんは、このコロナ禍で「舞台や芸術、文化は不要不急という見方があるが、ドイツの文化相は、芸術や文化、音楽は我々の生命維持に不可欠なものであると話してくれた」という話を引用しながら、「これだけのストレスのある状況で、人々は何に救われるのでしょう。今こそ、芸術が大きな役割を果たすときだと思っています。」と話していました。

この１年、世界では多くの人々が「経済活動か命か」「自粛か自由か」「それは必要か不必要か」等の二者択一の選択を強いられ、殺伐とした不寛容の空気が流れています。でもそれだけではなく、音楽を聴き、絵を鑑賞し、素晴らしい作品に触れ、「ああ、これは素敵だな」と思いに浸ったり、癒やされたりすることは、不要不急とはまた別の次元で、人間にとってとても大切な事だと思います。世界一流のものだけではなく、この地域で生活する多くの方々に、長町中学校の文化部の生徒の素晴らしい作品が目に留まって、「ああ、いいなあ」と思っていただけると、とても嬉しいです。